

老後・老人問題研究（第一報）

(2) 老人の健康と家族のかかわり

今村節子 平八重浩子 古川恵子 松浦薫

はじめに

老人問題のなかで、老人の健康状態が、老人自身の生活にとつてはいうまでもなく、老人にかかわる家族、そして社会に多くの影響をおよぼすことは、既に理解されていよう。「みんなで医療を考える」をテーマにした市民参加のシンポジウム（日本看護協会主催、七婦人団体その他協力、東京、日本青年会館で54年7月開催）の老人問題分科会「老人の健康」で一主婦は「父は昨年死んだが、正直いってほっとした。家族の負担にも限界がある」と家族の悩みを打ち明け、専門職である医師、看護婦は、老人の心身両面の健康や生甲斐にとつて 施設や病院に収容したままではなく、各家庭で生活し合うことが大切であると指摘し、家族の理解と通園用リハビリテーション施設や訪問看護制など行政面での充実を訴えた。

老人が特に老後を家族とともに過せることは、老人にとってしあわせであるに違いない。

しかし加齢による生物学的衰えと、それにとまなう疾病の増加とがみられる老人と ともに生活し合うことには 多くの困難もともなうであろう。その一端を探ってみようとする。

I 祖父母の年令構成

調査対象学生 587 人中 父方、母方いずれの祖父母も死亡が 116 人（19.8%）他 471 人には誰かが存命である。うち祖父母そろっての存命は、父方 93 組（15.8%）母方 116 組（19.8%）で、他は、それぞれ父方祖父 28 人、祖母 185 人、母方祖父 44 人、祖母 200 人、計 875 人である。

その年令構成をみると、一部未記入があるものの、記入分についてはすべて 60 才以上、祖父 75～79 才、祖母 70～74 才をピークに 60 才代から 90 才代におよび、その平均年令は祖父 77.4 才、祖母 75.4 才である。（表 1、（その 1）

これらのうち学生 120 人が、祖父母 143 人、その他 3 人（父方養母 1 人、母方養母 1 人、父方祖父妹 1 人）と同居している。このうち祖父母がそろっているのは父方 18 組、母方 6 組で、あとは父方祖父 9 人、祖母 70 人、母方祖父 2 人、祖母 12 人と、父方祖母の同居が最も多い。

したがってその年令構成は、前記全体と祖父については（77.4 才）ほぼ同じであるが、祖母についてはピークが 75～79 才となり平均年令も 76.2 才と僅かに高い。（表 1（その 2）

表1 祖父母の年齢構成

(その1) 全体

年 令	父 方		母 方		計
	祖父	祖母	祖父	祖母	
60才～64才	人 1	人 5	人 1	人 19	人 26
65才～69才	3	45	17	56	121
70才～74才	31	79	41	83	234
75才～79才	44	71	47	72	234
80才～84才	23	28	29	43	123
85才～89才	12	20	10	14	56
90才以上	2	11	4	6	23
年令不明	5	19	11	23	58
計	121	278	160	316	875

表1

(その2) 同居者のみ

年 令	父 方		母 方		計
	祖父	祖母	祖父	祖母	
60才～64才	人 0	人 2	人 0	人 0	人 2
65才～69才	1	13	0	3	17
70才～74才	7	25	3	5	40
75才～79才	12	27	1	9	49
80才～84才	7	10	3	1	21
85才～89才	0	9	1	1	11
90才以上	0	3	0	0	3
計	27	89	8	19	143

II 祖父母の健康状態

1. 日常の健康状態

今回は学生を通しての調査で祖父母の日常の健康状態しか知ることはできなかったが、75.0%が「非常に健康」または「普通（持病なし）」と答えているが、年齢階級別にみると、年齢が高くなるに従って「弱い（病気がち）」「寝たきり」が増加しているのは当然といえる。（表2（その1））

表2 祖父母の日常の健康状態

(その1) 全体

健康状態 年 令	非常に健康 (ほとんど病気が しない)		普 通 (持病なし)		弱 い (病気がち)		寝 た き り		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
60～64才	5	19.2	21	80.8	0	0	0	2.0	26	100.0
65～69才	28	23.1	68	56.2	22	18.2	3	2.5	121	100.0
70～74才	58	24.8	131	56.0	34	14.5	11	4.7	234	100.0
75～79才	52	22.2	116	49.6	56	23.9	10	4.3	234	100.0
80～84才	28	22.8	55	44.7	31	25.2	9	7.3	123	100.0
85～89才	12	21.4	26	46.4	14	25.0	4	7.1	56	100.0
90才以上	2	8.7	11	47.8	6	26.1	4	17.4	23	100.0
年令不明	15	25.9	28	48.3	15	25.9	0	0	58	100.0
計	200	22.8	456	52.2	178	20.3	41	4.7	875	100.0

註1

これを老人実態調査と比較すると、本調査に健康な老人が多いが、寝たきり老人も多いことがわかる。(2.9%：4.7%)

註2

またひとり暮らしの老人の健康状態と比較すると更にその差は大きい(1.6%：4.7%)そして、本調査では「弱い(病気がち)」は最も少ないが、ひとり暮らしの老人では最も多く健康ではないが、寝たきりになれない実態がうかがえる。

これらのことを学生と同居している祖父母だけについてみると、「弱い(病気がち)」は本調査の全体と全く同率であるが、「寝たきり」が9.1%と増加している。このことは同居を余儀なくしている理由とも考えられるが、家族と同居できる恵まれた老人が多いともいえる。(表2(その2))

2. 要介護の状況

1) 用便行動について

「寝たきり」および「弱い(病気がち)」老人の要介護の状況を、用便行動についてみると「弱い(病気がち)」祖父母の殆んどは自分で用が足せるし、手伝ってもらう祖父母はごく僅かである。「寝たきり」となっても約40%の祖父母は自分でできている。(表3(その1))

これを同居している祖父母についてみると、同じく「寝たきり」でも半数近くは自分でできるが、他の半数近くは「常時おむつを使用している」ので、用便の都度、祖父母側から人手を要求することは非常に少ないと考えられる。(表3(その2))

表2 (その2) 同居者のみ

健康状態 年齢	非常に健康 (ほとんど病気が しない)		普通 (持病なし)		弱い (病気がち)		寝たきり		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
60～64才	0	0	2	100.0	0	0	0	0	2	100.0
65～69才	1	5.9	11	64.7	5	29.4	0	0	17	100.0
70～74才	10	25.0	23	57.5	2	5.0	5	12.5	40	100.0
75～79才	5	10.2	26	53.1	15	30.6	3	6.1	49	100.0
80～84才	8	38.1	5	23.8	6	28.6	2	9.5	21	100.0
85～89才	1	9.1	7	63.6	1	9.1	2	18.2	11	100.0
90才以上	0	0	2	66.7	0	0	1	33.3	3	100.0
計	25	17.5	76	53.1	29	20.3	13	9.1	143	100.0

表3. 要介護状況 —— 用便行動について

(その1) 全体

排便状況 健康状態	自分で便所に行く		自分で便器を使用している		手伝って便所に行く		手伝って便器を使用している	
	人	%	人	%	人	%	人	%
弱い(病気がち)	139	78.1	11	6.2	9	5.1	1	0.6
寝たきり	10	24.4	6	14.6	4	9.8	4	9.8
排便状況 健康状態	ときどきおしめ を利用している		常時、おしめを 使用している		解 答 な し		計	
弱い(病気がち)	4	2.2	0	0	14	7.8	178	100.0
寝たきり	3	7.3	13	31.7	1	2.4	41	100.0

表3 (その2) 同居者のみ

排便状況 健康状態	自分で便所に行く		自分で便器を使用している		手伝って便所に行く		手伝って便器を使用している	
	弱い(病気がち)	寝たきり	弱い	寝たきり	弱い	寝たきり	弱い	寝たきり
60才～64才								
65才～69才	4		1					
70才～74才	2	1				1		
75才～79才	12	2	1	1				
80才～84才	5							
85才～89才	1	1						
90才以上		1						
計	24	5	2	1	0	1	0	0
排便状況 健康状態 年令	時々、おしめを利用 している		常時、おしめを使用 している		解 答 な し		計	
	弱 い	寝たきり	弱 い	寝たきり	弱 い	寝たきり	弱 い	寝たきり
60才～64才							0	0
65才～69才							5	0
70才～74才				3			2	5
75才～79才	1				1		15	3
80才～84才		2			1		6	2
85才～89才				1			1	2
90才以上							0	1
計	1	2	0	4	2	0	29	13

2) 食事について

同居の祖父母の殆んどは家族とともに食事をとり 少数の別々の場合でも 炊事は一緒に行っていることが多く、家の仕事は農業、商業等 または主婦が勤めをもっている場合には 祖母はむしろ炊事の役割を担当することがある。

これは祖父母そろって隠居に住まっている場合でも同様に炊事は家族一緒に行い、食事だけを老夫婦でとっている。しかし炊事食事とも全く別に祖父母だけという場合も多い。

食事は老人にとっては一番の楽しみであることが多い。また家庭の雰囲気、人間関係等と微妙に影響しあうものであるが、これは更に祖父母が家族のなかにどんな座を占めているかによるであろう。

食事の献立が、はっきりと祖父母本位に考えられている家庭が6.7%あるが、75.6%は父母、子どもが主体となっている。

3. 介護者の続柄

誰が介護に当るかをみると嫁が最も多く、特に同居の場合その率が高い。次いで娘、息子の順となるが、「寝たきり」の介護には配偶者も多く妻だけではなく夫も当っている。

健康状態「弱い（病気がち）」の介護者について「不明」が多いのは、介護の必要がそれ程多くないことも意味している。

「その他」にはホーム・ヘルパー、近所の人、一時的入院、家族みんなが交代でなどが含まれる。
註3

これまでの実態調査でも嫁が高率を示していることは同様であるが、次いで配偶者（妻）娘となっていて、今回の調査では順位が違ってくる。これは、今回介護を必要とする祖父が、祖母に比べて少なく（全体では祖父56人、祖母173人、同居の中では祖父8人、祖母34人）、いわゆる高令型核家族世帯も少ないことが考えられる。（表4（その1・2））

表 4

（その1）全 体

介護者 健康状態	介護者								
	配偶者	娘	息 子	嫁	む こ	孫	その他	不 明	計
弱 い (病気がち)	3人	3.6	2.5	6.2	0	0	1.0	4.2	17.8
	1.7%	2.0.2	1.4.0	3.4.8	0	0	5.6	2.3.6	10.0.0
寝 た き り	6人	9	2	1.6	1	1	6	0	41
	14.6%	2.2.0	4.9	3.9.1	2.4	2.4	1.4.6	0	10.0.0
計	9	4.5	2.7	7.8	1	1	1.6	4.2	21.9
	4.1	2.0.5	1.2.3	3.5.6	0.5	0.5	7.3	1.9.2	10.0.0

表 4

（その2）同居者のみ

介護者 健康状態	介護者								
	配偶者	娘	息 子	嫁	む こ	孫	その他	不 明	計
弱 い (病気がち)	0人	6	2	1.8	0	0	0	3	2.9
	0%	2.0.7	6.9	6.2.1	0	0	0	1.0.3	10.0.0
寝 た き り	3人	2	1	6	0	0	1	0	1.3
	23.1%	1.6.4	7.7	4.6.1	0	0	7.7	0	10.0.0
計	3人	8	3	2.4	0	0	1	3	4.2
	7.1%	1.9.1	7.1	5.7.2	0	0	2.4	7.1	10.0.0

Ⅲ 祖父母との同居に対する学生の意識

ここでは祖父母の健康状態が、同居に対する意識に影響を与えているであろうか、与えているとすればどのようなことかをみると

表 5 祖父母との同居に対する学生の意識

意 識	好ましい		好ましくない		わからない		解答なし		計	
	<i>ab</i>	<i>cd</i>	<i>ab</i>	<i>cd</i>	<i>ab</i>	<i>cd</i>	<i>ad</i>	<i>cd</i>	<i>ab</i>	<i>cd</i>
祖父母の健康状態										
学 生 に と っ て	42人	23	5	3	33	13	1	0	81	39
	51.9%	59.0	6.2	7.7	40.7	33.3	1.2	0	100.0	100.0
学 生 の 親 に と っ て	27人	14	6	13	44	12	4	0	81	39
	33.3%	36.0	7.4	33.3	54.4	30.7	4.9	0	100.0	100.0

註 祖父母の健康状態についての記入

- a* 非常に健康 (ほとんど病気しない) *c* 弱 *い* (病気がち)
b 普 通 (持病なし) *d* 寝たきり

先づ学生自身は 祖父母の健康状態如何にかかわらず同居を「好ましい」ことと考えるものが最も多く、その理由として、表現にそれぞれ多少の違いはあるが次のようにいっている。

- イ) いろいろの話が聞けるし、教えてもらえるし、また学べる。……40
 ロ) 頼りになり、やさしく好きである。……6
 ハ) 祖父母は大切にしたいし、世話ができて、安心である。……10
 ニ) 同居は当然である ……2

次いで「わからない」とするものが多いが、はっきり「好ましくない」と考えるもの少数は、理由として「うるさい 気を使う」といっている。

更に両親にとってどうだと学生が考えるかをみると、健康な祖父母との同居については「わからない」とするものが最も多いが、次いで「好ましい」とするものが「好ましくない」よりずっと多い。

一方「寝たきり」および「弱い(病気がち)」祖父母との同居については、学生自身にとっての場合より「好ましい」とするものが少なくなり、「好ましくない」とするものとはほぼ同率となっている。

これらの理由として、「好ましい」については

- イ) いろいろ教えてもらったり 父母の相談相手になる。……9
 ロ) 両親が共働き、商業、忙しい時などに手伝ってもらえる。…12
 ハ) いざこざがあっても互に協力しあえる。……5
 ニ) 子として親の世話をするのは当然である。……6

「好ましくない」については

- イ) 祖母と母とのおりあいが悪い。意見があわず口論が絶えない。……8
 ロ) 父または母が気を使う。……8
 ハ) 母が病気の世話に大変である…3

などである。

IV 「寝たきり」祖父母の実態

本調査で同居の祖父母のなかにしめるいわゆる「寝たきり」老人の率の高いことを前述した。一般に「寝たきり」といっても、全くの寝たきりの人から、介援すれば起坐その他いくらかの生活動作が自力で可能な人など程度の差があるが、今回はそれらの確認まではしていない。

13例の実態は次表の通りである。

年齢は70～74才5例、75～79才3例、80～84才2例、85～89才2例、90才1例、

性別では12例までが祖母で、祖父は1例に過ぎない。

それらの配偶者をみると、半数弱の6例が存命であるが、その健康状態は4例までは「非常に健康」また「普通」であるが、2例は自分も「弱い（病気がち）」で、年齢もそれぞれ相手と1～7才の差であることを考えると、双方の健康が気になる。

そこで介護者をみると、これら配偶者が健康であれば先づその介護に当たっているが、不健康となれば、家族も2人もの要介護者をみることは到底できないであろう。祖母の1例は入院中となっている。

その他の介護者は、嫁・娘、息子である。嫁、娘のうち主婦専業2例づつ、他は農業、商業の合間でみることになる。2例は、介護に当る嫁、息子およびその相手即ち夫婦ともに公務員等の勤めをもっている。

一般に誰が介護するかによって、老人の欲求表現即ち依存度の異なることがいわれている。今回そのようなところまで知ることはできなかったが、ありきたりの、しかし生きていくうえの毎日の身のまわりのことが老人1人でできなくなった時、それを如何に支援していくか重要なことである。

支援の根本原則は、老人に残っている力を大切に、できるだけ自立できるように側面援助をすること。過度の支援によって老人の心身をますます廃退させることのないように配慮することである。

しかし「寝たきり」になると、このような老人側にある必要性より、介護者側の都合が優先される傾向にあるのがしばしばである。

例えば生活動作が何らかの方法でまだできるような場合でも、家族はウロウロされるとかえって不安を感じたり、うるさく思ったりして、むしろ「寝たきり」を望む場合があり、そんな時でも、用便についてだけは、最底自分で足して欲しいとも願うのである。一方老人側もどれほど気を使うかわからない。女であればその傾向は一層強い。介護者が娘であれば最後の孝養にもなるわけであるが、これまでの多くは嫁である。

本調査でも父方祖母との同居が最も多く、この「寝たきり」祖父母についても同様なことがみられる。

唯同居開始の時期が学生の父母の結婚時からである例が多く、また仕事が農業や商業など家族ぐるみの生活のなかで老年を迎えた舅姑と嫁の関係、これらの嫁は忙しく労働の厳しさはあるかもしれないが、時間的制約のある特定の職業でないことなど、内包されている複雑な問題をいくらかでも解しているかもしれない。

しかしこんなパターンで老後問題が解決される呈はなく、更に今後についてはこのなかで成育して来

た学生の意識のなかからも前述のようにそれがうかがえる。既にこのような老人介護自体が現在一般的ではないともいえよう。

それでも諸外国に比べて同居率の高いわが国において、またこれまでの老人介護の結果から家庭で生活し合うことの大切さが強調されている。

それにはただ雑然と同居するのではなく、一定のルール、条件が必要なこともあげられている。その条件の1つ、部屋が別に確立していることについても本事例では一応そろっているが、詳細を「住宅実態」の項にゆずる。

ま と め

女子短大生を対象に その祖父母の日常の健康状態を中心にして、特に学生が同居している祖父母について調査し、そのなかから更に、「寝たきり」の祖父母の実態を追究した。

その結果次のことがいえる。

1. 祖父母の年齢は60～90才代におよび、平均年齢祖父77.4才、祖母75.4才である。
2. 父方祖母との同居が最も多い。
3. 祖父母の70～75%は健康である。
4. 同居している祖父母のなかに9.1%の「寝たきり」がいる。その殆んどが祖母である。
5. 介護には嫁、配偶者（妻、夫）、娘等が当たっている。
6. 祖父母との同居について学生の多くは自分自身にとっては「好ましい」と考えるものが多いが、親にとっては、「好ましくない」と考えるものが、祖父母が不健康である場合に多い。
7. 「寝たきり」の祖父母については、学生の父母の結婚時からの同居が多く、その家族生活のなかで自然に老年を迎え、比較的恵まれた老後であるといえる。

以上の本調査をとおして 家族による老人介護の質的、量的限界の一面をみたように思う。この限界を見すえながら、老人への専門的支援が、無理なく提供されるよう 社会的対応との調和を考察することが今後の大きな課題である。

「寝たきり」祖父母との実態（13人）

祖 父 母	年 令	性 別	配 偶 者		職 業 (本人および夫)	収 入	住 居	家 族			
			有 無	年 令				健 康	続 柄	職 業 (夫・妻)	家 族 数
イ	71才	母方母	有	72才	非常に健康	国鉄職員	恩給, <i>b</i>	専用 居室4.5畳	長女	商 業	7人
ロ	72	父方母	有	74	普 通	農 業	年 金	隠居10.5	二男 (長男死)	農 業	7
ハ	73	父方母	有	78	弱 い	石 工	年金 <i>b c</i>	隠居27.0	長男	公 務 員 主 婦	6
ニ	74	父方母	有	81	弱 い	商 業	商業, <i>a</i> 年金, <i>c c</i>	専 4.5	三男	商 業	6
ホ	75	母方母	無			旅館経営	年金, <i>a</i>	専 4.5	長男	事 務 主 婦	5
ヘ	76	母方母	有	81	非常に健康	農 業	年金, <i>b</i>	隠居 4.5	長女 (父死亡)	紬 織 業	7
ト	77	父方母	無			農 業	年金, <i>a</i>	隠居12.0	長男	公 務 員 団 体 職 員	6
チ	78	父方父	有	76	普 通	農 業	年金 <i>b c</i>	専 6.0	長男	公 務 員 公 務 員	6
リ	81	父方母	無			商業農業	年金 <i>a c</i>	専 8.0	二男	農 業	7
ヌ	83	父方母	無			教 員	恩給, 家賃 地代その他	専 6.0	長男	教 員 主 婦	6
ル	88	父方母	無			農 業	年 金	専 10.5	二男	農 業	4
ヲ	89	母方母	無			郵便局長	恩 給	専 4.5	不明	ボイラー技師 主 婦	5
ワ	90	父方母	無			不 明	年金, <i>b</i>	専 2.0	四男	会 社 員 公 務 員	6

註 収入についての記入

a 生活費一切を同居の子どもがみる

b 小遣い程度を同居の子どもがくれる

c 小遣いを時々他の子どもがくれる

同居開始時期	用便状況	家族といっしょに食事するか	炒事を家全体として一本でやっているか	介護者	同居に対する意識	
					学生	学生からみた親にとって
不明	手伝って便所に行く	時々いっしょ	いつもいっしょ	夫	好ましい	好ましくない
学生の父母の結婚時	常時おしめを使用している	時々いっしょ	時々いっしょ	夫 その他	わからない	わからない
不明	常時おしめを使用している	あまりいっしょにしない	いつもいっしょ	嫁 入院中	わからない	好ましくない
学生の父母の結婚時	自分で便所に行く	いつもいっしょ	いつもいっしょ	嫁	好ましい	好ましくない
不明	自分で便所に行く	いつもいっしょ	いつもいっしょ	娘	好ましい	わからない
祖父母が老令になってから	自分で便所に行く	全く別 祖父母のみで	全く別に祖 父母のみで	夫	好ましい	好ましい
祖父母の家の近くに転勤後	自分で便器を使用している	あまりいっしょにしない	いつもいっしょ	息子	わからない	好ましくない
学生の父母の結婚時	自分で便所に行く	全く別 祖父母のみで	いつもいっしょ	妻	好ましい	好ましくない
学生の父母の結婚時	自分で便器を使用し時々おしめも使用	いつもいっしょ	いつもいっしょ	嫁	好ましい	わからない
学生の父母の結婚時	時々、おしめを使用している。	いつもいっしょ	いつもいっしょ	嫁	好ましい	好ましくない
学生の父母の結婚時	常時おしめを使用している	全く別である	いつもいっしょ	嫁	わからない	好ましくない
祖母が老令になってから	自分で便所に行く	全く別である	いつもいっしょ	娘	わからない	わからない
学生の父母の結婚時	自分で便所に行く	大体いっしょ	いつもいっしょ	嫁	わからない	わからない

註1.

高齢者の健康状況（60歳以上）

	総 数	健 康	普 通	弱い病気がち	半年以上床につききり	不 詳
総 数	100.0	33.7	34.4	29.0	2.9	0.0
60～64才	100.0	42.4	33.6	22.7	1.1	0.1
65～69才	100.0	33.3	35.9	28.5	2.2	0.1
70～74才	100.0	27.8	34.9	34.0	3.4	—
75～79才	100.0	25.3	30.5	38.9	5.3	—
80～ (再掲)	100.0	24.7	36.8	31.1	7.5	—
65才～	100.0	29.1	34.8	32.2	3.8	0.1
70才～	100.0	26.3	34.1	34.7	4.9	—

資料 厚生省「昭和47年度老人実態調査」

註2.

健康状態（ひとり暮らしの老人）

	総 数	健 康	普 通	弱い・病気がち	床につききり
率 (%)	100.0	30.2	32.5	35.7	1.6

資料；厚生省「昭和48年度 老人実態調査」

註3

介護者の続柄

ねたきり老人との続柄 介護者の性別	1. 配偶者	2. 子ども	3. 嫁・むこ	4. 孫	5. 親 族	6. その他	7. 不 明	合 計
1. 男	5.7	2.4	0.4	0	0.1	0.1	0.3	9.0% (785人)
2. 女	24.7	17.8	37.0	1.8	1.5	2.0	2.1	86.9% (7,588人)
3. 不 明	1.2	0.8	0.7	0.2	0.1	0.1	1.0	4.1% (357人)
合 計	31.6	20.9	38.1	2.0	1.7	2.2	3.3	100.0% (8,730人)

資料；全国社会福祉協議会「老人介護の実態調査（中間報告）」昭和52年9月

参考文献

1. 厚生指標——国民の福祉の動向 25巻11号 S53. 特集号 厚生統計協会
2. 老人福祉の新しい展開 '78老人福祉年報 S53. 6 全国福祉協議会
3. これからの福祉施策 S51. 11 全国社会福祉協議会
4. 老人保健 山下章他著 1971. 9 医学書院
5. 在宅看護への出発 木下安子著 1978. 7 勁草書房
6. 老年——その自然の理解のために マーガレット・N・ヒル著 猪飼信子訳
S46. 10 杏林書院
7. 看護 S54. 9 日本看護協会出版会